

静思の時

< 創世記 >

主よ。朝明けに、私の声を聞いてください。
朝明けに、私はあなたのために備えをし、
見張りをいたします。
(詩篇 5 篇 3 節)



シナイ連山の朝明け (J バイブル引用)

創世記

1. 内容

「創世記」は旧約聖書の最初の書物です。「創世記」という書名をつけたのは、ギリシア語訳（70人訳）者たちで「起源」とか「はじめ」という意味からそうしたのでした。しかし、ユダヤ人たちは、この書に特定の名前をつけず、ただ「はじめに」（ペリシーツ tyviareB.）という巻頭の句を呼び名としていました。

名称はともかくとしまして、「創世記」はその名の示す通り、様々な始まりについて記しています。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| (1) 世界の始まり | (創世記 1 章 1－25 節) |
| (2) 人類の始まり | (創世記 1 章 26 節－2 章 25 節) |
| (3) 世界における罪の始まり | (創世記 3 章 1 節－7 節) |
| (4) 贖いの約束の始まり | (創世記 3 章 8－24 節) |
| (5) 家族生活の始まり | (創世記 4 章 1－15 節) |
| (6) 人間が作った文明の始まり | (創世記 4 章 16 節－9 章 29 節) |
| (7) 世界の国々の始まり | (創世記 10－11 章) |
| (8) ユダヤ民族の始まり | (創世記 12－50 章) |

このように創世記は神以外のすべての始まりを告げています。しかし、その中心は、罪を犯し、墮落した人間を、どのようにして神のもとに連れ戻すか、「救いの始まり」を示していると言えます。

2. 著者と執筆年代

「創世記」は、その著者が誰であるか明確に記していません。しかし、ユダヤ人の間では、「創世記」から始まる5つの書物（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）をモーセ五書と呼び、その著者がモーセであると伝統的には信じられていました。

また、聖書自身も、モーセが、神の啓示のことばを、書き記したことを告げています（出エジプト記 17:14、24:4、34:27）。更にイエスご自身もこの5つの書物が、モーセによるものであることを認めておりました（ルカ 24:27、44、ヨハネ 5:46、47）。

また、聖書を読んでいきますと、様々な資料が集められ、編集されたと思われる箇所がいくつかあります（創世記 2:4、5:1、6:9、10:1、11:10、27、25:12、19、36:1、9、37:2）。多くの学者は、ここに記されている「歴史」とか「系図」と訳されていることばは、創世記が編集される時、使われた資料の表題であったのではないかと考えています。

これらの資料が、どのように伝わり、いつ頃まとめられたのかはわかりませんが、モーセは、これらの歴史的資料を用いながら、聖霊に導かれて、創世記を始めとするモーセ五書を記したのではないかと考えられます。ちなみにモーセは紀、元前（B.C）1500年前後、あるいは、紀元前（B.C）1300年前後の人と考えられています。